

指定校番号	28108	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第二中学校	校長	岡田 康浩	生徒指導主事	池田 義和
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『体育大会での取組』

取組のねらい『キーワード：本気の感動』

・生徒 1 人 1 人の役割に責任を持たせ、練習から全力で取り組む姿を生徒自身が作り出すなど、本気で取り組むことで、「本気の感動」を味わうことにより、主体性を育て、自己有用感を持たせる。

取組の具体的内容『キーワード：教員主体から生徒主体へ』

・縦割りによるチーム編成
 ・体育大会の取組に至るまでの生徒会活動の充実
 問題の発見・確認、議題の設定⇒解決に向けての話合い⇒解決方法の決定
 ⇒決めたことの実践⇒振り返り⇒次の課題解決へ
 ・リーダー（団長）を中心としたチームづくり

取組の課題・創意工夫『キーワード：言いたいけれど…』

・「待つ」「我慢」の指導
 →チームづくりにぎこちなさが見られるが、教職員が敢えて口を挟まず、最後まで生徒自身にやらせきる指導体制を大切するよう全職員が共通認識を持って指導する。
 ・リーダーをサポートする態勢
 →継続的なリーダーの育成とそれを支える集団づくりが課題である。

取組の成果（効果）『キーワード：スタートライン』

・3年ぶりの「縦割り」による体育大会だったが、取組初年度としては、立派にやりきった。
 ・所属するチームや自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたり、人間関係をよりよく構築したりするなかで、特別活動における自主的・実践的な活動を果たすことができた。
 ・モデルがない中で、最初はどのよう引っ張っていくか試行錯誤したが、3学年担当教諭や体育科教諭が、生徒の主体性を促し、少しずつ機能していった。
 ・3年生の凄さが、その後の行事でも見られ、最高学年としての「良きモデル」が出来つつある。



今後の展開『キーワード：繋ぐ』

・今年度の取組を基準に、次年度に向けて、更にバージョンアップしていけるよう、現2年生にリーダーとしての自覚を如何に持たせるか、具体的な取組やその手立てを検討し、生徒主体の活動を推進する。
 ・生徒主体の活動を多く仕組むが、我々教職員が本校の生徒指導体制にどのようなビジョンを持って臨むか、全教職員で共通認識を図り、ベクトルを揃えた取組を行う。

他校へのアドバイス『キーワード：他校に比べれば、まだまだ…』

- ・生徒の主体性を育む取組として課題や改善すべき点はあるが、毅然とした生徒指導のもとで、生徒に「自主」「協働」「創造」を3年間で意識させて取組を進める中で、3年生のリーダーとしての頑張りが全校生徒や地域・保護者に伝わり、素晴らしい感動を創り上げられると感じた1年であった。
- ・安易に学校行事を進めるのではなく、目的や目標、めざす生徒の姿を求め、生徒理解や学校全体の現状把握を丁寧に行うとともに、明確なビジョンや計画性を持って全教職員がベクトルを揃えて取り組むことが重要である。

